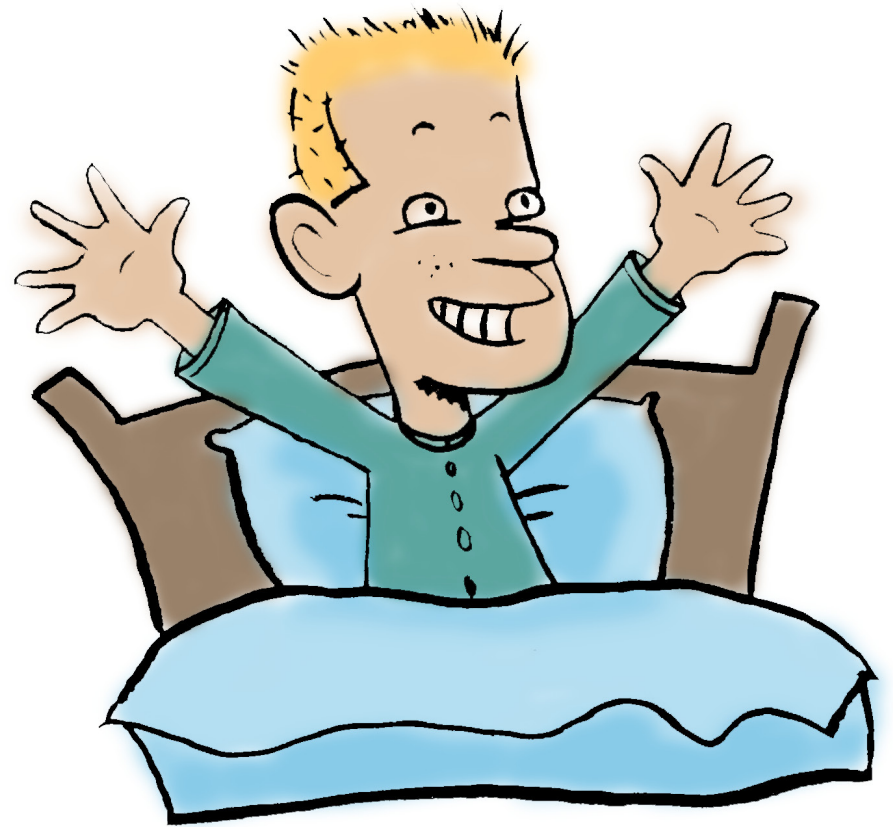


# なか なお 仲直りする

ジェイコブは、わくわくしながら目を覚ました。今週はずっと、この日を楽しみにしていたんだ。今日は、家族で海に出かける。ジェイコブはさっと起きて服を着、ベッドを整えて、朝食を食べに下へおりてきた。

ジェイコブがキッチンに行くとき、妹のエミリーがいた。「ジェイコブったら、のろまね！ わたしはもう、何時間も前から起きてるのよ。海に行く準備も全部できてるわ。」と妹は言った。



「持ってく物なんて、大してないさ。砂で遊ぶのに使う物があればいいんだ。ものすごくてっかいレーストラックを作りたいからね。」

「それはもう、全部わたしの荷物に入ってるわ。お姫様のお城を作るの。お父さんも手伝ってくれるのよ。」

「そ・・・そんな・・・」 ジェイコブは早口になった。「ぼくが砂用の道具を使いたい、知ってたぞ？ 砂浜でレーストラックを作るんだって、ずっと話してたじゃないか。」

「わたしが使い終わるまで待つからね。」



ジェイコブは「<sup>いひわる</sup>寤地悪！」と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>って、エミリーを<sup>あらあら</sup>荒々しくおした。

エミリーも、おこ<sup>こえ</sup>って<sup>あ</sup>声<sup>かあ</sup>を上げた。「お母さん！」

「<sup>いったい</sup>一体 どうしたのよ？」と、<sup>かあ</sup>お母さんがたずねた。

「ジェイコブがおしたの！」とエミリー。<sup>とろひ</sup>同時にジェイコブも<sup>い</sup>言<sup>い</sup>った。  
「エミリーがひとりじめにしてるんだ！」

<sup>かあ</sup>お母さんは<sup>いき</sup>ため息をついて、いすにすわった。  
「<sup>あさ</sup>朝<sup>あさ</sup>っぱらからケンカなんて、<sup>ざんねん</sup>残念だわ。せ<sup>せ</sup>っか<sup>か</sup>く  
<sup>いちにち</sup>一日を<sup>たの</sup>楽しく<sup>す</sup>過<sup>す</sup>ごそうと<sup>い</sup>していたのにね。

あなたたちがケンカするなら、  
<sup>と</sup>出<sup>で</sup>かけるのは<sup>や</sup>止<sup>と</sup>めに<sup>し</sup>するわ。」

<sup>いったい</sup>一体、どう  
なっちゃったんだ？



「いやだあ！」と、<sup>ふたり</sup>二人がさげんだ。

「それなら<sup>ふたり</sup>二人とも、<sup>もんだい</sup>問題を<sup>さいしょ</sup>最初から<sup>ただ</sup>正しなさい。<sup>かいけつせき</sup>解決策を<sup>かんが</sup>考えるの。  
あなたたちに<sup>なに</sup>できることは何かしら？」

ジェイコブは<sup>かんが</sup>考えた。<sup>いったい</sup>（一体、どうなっちゃったんだ？<sup>あ</sup>起きた<sup>とき</sup>時は  
すごくうれしかったのに。それにしても、<sup>ときどき</sup>時々エミリーはすごく  
<sup>あたま</sup>頭に<sup>く</sup>来るんだよね。だけど、<sup>すなよる</sup>砂用の<sup>どうぐ</sup>道具を<sup>つか</sup>使えないことよりも、  
<sup>うみ</sup>海に<sup>い</sup>行けないことのほうがいやだよな。」

ため息をつきながら、ジェイコブは言った。「頭には来たけど、らんぼうにおしたのは悪かったよ、エミリー。ごめんな。」

「エミリーは？ 何が言うことない？」とお母さんがたずねた。

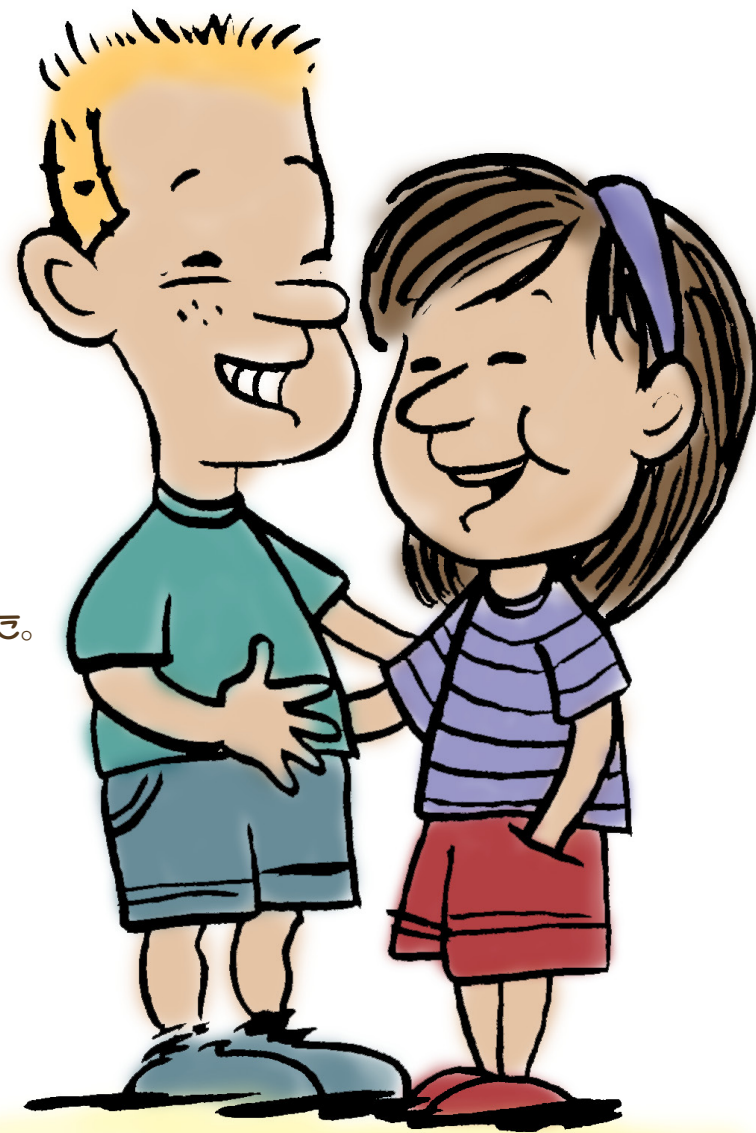
「砂用の道具のことで、意地悪を言うべきじゃなかったわ。わたしはただ、大きくて最高の砂のお城を作りたかっただけなの。いっしょに道具を使えばいいわね。」

「上出来だわ。問題がある時は前向きに解決策を考えるほうが、ケンカするよりも、ずっといいわね。」

「お姫様の砂のお城を作って、その周りに、レーストラックを作るのはどうかな。お父さんにも手伝ってもらって、いっしょにやろうよ。」と、ジェイコブが言った。

「楽しそうじゃない。じゃあ、お姫様の車も、荷物に入れるわ。」とエミリーが言った。

ジェイコブは今朝起きた時のように、またうれしい気分になった。これから海で過ごす1日が楽しみだ。



### 成功のひけつを覚えていよう：

自分がしてほしいように、他の人にも敬意をはらってしてあげよう。

他の人の身になって考えよう。問題があれば解決策を考えよう。

まちがったことをしたならすぐにあやまり、

人のまちがいもゆるしてあげよう。